

# ふるさと再発見！タブレット端末を携帯して地域を探る協働学習

熊本県山江村立山田小学校 教諭 樋口 勇輝

キーワード：社会科，ふるさと学習（郷土教育），タブレット端末，協働学習

## 1. はじめに

現在の日本では、人口が減ると、全国の地方自治体の維持が難しくなるとの長期推計が相次いでいる。大学教授や企業経営者からなる民間組織「日本創成会議」は、2040年には全国1800市区町村の半分の存続が難しくなるとの予測を示している。また、国土交通省も全国6割の地域で2050年に人口が半分以下になるとしている。こうした状況の中で、ある程度の人口を保つことを前提とした国や地方自治体の政策は、現在大きな見直しを迫られている。本研究では、小学校社会科における「ふるさと学習（郷土教育）」の充実に直結するタブレット端末活用の具体的展開を授業実践から検討した。一人一台のタブレット端末環境を生かし、地域の良さを発見するための写真や映像の撮影、授業の中での問題解決のための課題別による映像視聴や情報共有、児童自らが作成したプレゼンテーションや提案書（新聞）など、タブレット端末を携帯しながら地域を探る協働学習の充実に図った。これらのことから、自分たちの郷土を愛し、ふるさとを大切に思う心の醸成につながると考えた。

## 2. 実践のポイント

### (1) 単元導入

- 地域の良さを再発見するために、地域の歴史民俗資料館寺社仏閣を見学調査する。（写真1）
- 地域の公共施設を見学し、地域のお年寄りや子育てをされている方へ地域の良い点や問題点についてインタビュー調査する。

### (2) 単元展開

- 調査したことをもとに学習問題を作り、国や市町村の政治の仕組みについて課題別で調べる。
- 児童自らがプレゼンテーションを作成・活用し、村長や行政職員等に意見発表する。
- 地域の村議会場で「子ども議会」に参加し、村長や行政職員に質問する。

### (3) 単元終末

- ふるさとの将来について話し合い、村長に向けた「未来への提案」を作成する。

## 3. 実践内容

### 3.1 授業内容と単元計画

6年生32名の児童を対象に「わたしたちの生活と政治」の単元で実施した。「2040年問題」について知った児童は、「ふるさとをより良くするにはどうすればよいのか」を考え、プレゼンテーションや提案書（新聞）で発信する学習を展開した。（表1）

### 3.2 実践の内容

#### (1) タブレット端末携帯による地域を探る学習

山江村の課題と住民の願いについて聞き取るようにさせ、インタビュアー、記録者、撮影者の3つの役割分担を行い、調査活動を行った。調査内容を映像として記録しておくことで、教室での振り返りに生かし、繰り返し視聴して考察を深めた。さらに、児童自身が撮影した映像や写真を授業の中で活用することで、児童の主体的な学びが生まれた。（写真2）

表1 「わたしたちの生活と政治」単元計画

時	学習活動	ICT活用の工夫点
1 ～ 3	地域の公共施設を見学し、お年寄りや子育てをされている方へのインタビュー調査を行う。	【工夫点1】 タブレット端末携帯による地域を探る学習
4 ～ 10	学習問題をもとに、国や県、市町村の政治の仕組みについて課題別で調べる。	【工夫点2】 課題別グループでの情報共有と思考の深化
11 ～ 13	調べてきたことをもとにプレゼンテーションを作成し、「子ども議会」で提案する。	【工夫点3】 「子ども議会」提案でのプレゼンテーション
14 ～ 15	ふるさと山江村の未来について考え、話し合い、村長に向けた提案書を作成する。	【工夫点4】 未来思考型の提案書の作成



写真1 地域の寺社仏閣の撮影



写真2 地域の方へのインタビュー

## (2) 課題別グループでの情報共有と思考の深化

タブレット端末に課題別で資料（統計、図表、映像等）を配布し、児童は課題別グループで資料を分担して調べ、学習課題に対する自分なりの考えをもった。タブレット端末を活用した課題解決に向けた主体的な学びを通して、思考力・表現力を高めた。また、資料を根拠に自分の考えを説明し合い、グループで協働しながらこれからのふるさとの在り方について新たな価値を創造した。（写真3）

## (3) 「子ども議会」提案でのプレゼンテーション

自分が調べた課題に対してより説得力をもたせるためにタブレット端末でプレゼンテーションを作成した。（写真4）個人で作成したプレゼンテーションを学習グループで検討し、村長や行政職員等に向けた提案や質問について議論した。また、それらをもとに「子ども議会」という形で村長や行政職員にプレゼンテーション発表を行い、提案や質問に対するコメントをもらうようにした。（写真5）児童は自分たちが村民の一人であるという自覚を高めることにつながり、将来にわたって社会に参画する意識を高めることができた。さらに、本村にとって小学生による「子ども議会」は初めての開催であり、未来に向かって社会の在り方（魅力ある村）について探る大変良い機会となった。

## (4) 未来志向型の提案書の作成

単元を通して学習課題に対して、これまでの学習活動を通じて得られた結果や考察を整理し、自分たちの村をよりよくするための未来志向型の提案書を作成した。（写真6）提案書には、これまで自分たちが撮影してきた写真や資料を取り入れながら説得力のある文章表現を心掛けた。また、単元終末での授業で出し合った学習問題に対する予想や議論を再度深める活動を通して、思考力や表現力の深化を図った。さらに、児童が作成した提案書は児童が直接村長のもとに届け、村長からは「みなさんからのすばらしい提案を今後の村づくりにしっかり役立てていきたい。」という温かい言葉をいただいた。

## 4. 成果

### (1) 児童の変容

タブレット端末を活用した、地域を学ぶ学習、課題別での調べ学習、プレゼンテーション能力や表現力の育成を通して、単元終末の「未来への提案書」づくりでは、自分の考えを比較・関連・統合付けし、判断や根拠の理由をしっかりと示しながらまとめていく児童が多くみられた。また、単元を通して協働学習の充実を図ったことで、児童同士の学び合いに対する意識の向上もみられた。

### (2) 絆の深まり

意識調査の結果から、郷土を愛し、ふるさとを大切に思う心を持つ児童が多くみられるようになった。これは、今回のふるさと学習（郷土教育）が児童の心に大きく響いた結果だと考える。

## 5. 今後に向けて

2040年は今の小学校6年生の児童が輝く時代である。大人になっても自分たちの郷土に誇りと愛情をもち、大切を守ろうと思う心をいつまでも育ててほしいと願うばかりである。



写真3 グループで協働して話し合う児童

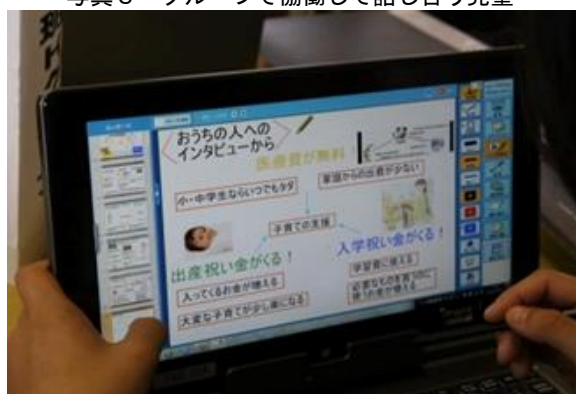


写真4 児童が作成したプレゼンテーション



写真5 子ども議会での意見発表



写真6 児童が作成した「未来への提案書」